

第25回防災まちづくり大賞受賞団体の決定

消防庁地域防災室

「防災まちづくり大賞」は、阪神・淡路大震災を契機に平成8年度に創設され、今回で25回目を迎えました。地域に根ざした団体・組織等、多様な主体における防災に関する優れた取組や、防災・減災、住宅防火に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強い安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施しています。

今回は全国各地から93事例の応募があり、学識経験者等で構成される選定委員会において、他の地域の模範となる優れた17事例が選定されました。

受賞事例数

表彰区分	総務大臣賞	3
	消防庁長官賞	5
	日本防火・防災協会長賞	9
(参考) 応募総数		93



防災まちづくり大賞シンボルマーク

災害による被害を軽減するためには、地域の防災力を強化すること、とりわけ地域の方々の「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い意識と連帯感に支えられた自主的な防災活動を推進していただくことが重要です。

平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、住民、自主防災組織、消防団、地方公共団体、国等の多様な主体が、相互に連携協力して、地域防災

力を高めていくことの重要性が示されました。

受賞団体の皆様には、今回の受賞を契機として、より一層日頃からの活動を充実・発展させ、引き続き、地域防災力の向上にご尽力いただくことを期待しています。

〈総務大臣賞受賞事例の紹介〉

今回、総務大臣賞を受賞された3事例の取組を紹介します。

- 団体名：宮城県^{たがじょう}多賀城高等学校
- 事例名：東日本大震災の教訓を未来に伝え国内外の防災・減災に貢献する人材を育てる学校づくり
- 所在地：宮城県多賀城市

【団体概要】

「さとく ゆたかに たくましく」を教育目標に掲げた普通科の進学校です。東日本大震災を受け、平成28年から全国で2例目となる防災系の学科「災害科学科」が開設され、普通科6クラス・災害科学科1クラス合わせて約800名以上の生徒が通学しています。

【背景】

東日本大震災では、河川や運河を遡上し溢れた波が様々な方向から押し寄せ、建物の間を抜けながら波高を上げ勢いを増す「都市型津波」と呼ばれる津波に襲われ、多賀城市で188名の犠牲者を出しました。

平成28年、「災害科学科」の開設を契機に、その教訓や経験を後世に伝える防災教育のパイロットスクールを目指し、「災害から命とくらしを守る」ことの大切さを発信することとしました。

【取組の内容】

(1) 津波標識設置活動

平成25年8月から津波標識の設置を開始し、設置開始から7年で、これまでに市内約120箇所に設置しました。

(2) 被災地域の「まち歩き」案内活動

生徒が作成したまち歩きマップを参加者に配布し、多賀城市の震災被害について説明しながら「まち歩き」案内活動を行っています。

(3) ボランティア活動

災害ボランティアだけに留まらず、震災慰霊や復興住宅での被災者交流など数多くのボランティアを展開しています。

(4) 東日本メモリアル day

全国から毎年約 10 都道府県の高校生と市内の中学校を招待し、大震災の犠牲者慰霊とその経験と教訓を後世に継承することを目的に平成 28 年から行っています。

(5) 災害科学科設置

災害を科学的に捉えるカリキュラムを編成し、専門的な科目やフィールドワークを課題研究等にまとめ、その成果を各種学会やシンポジウムなどで数多く発表しています。

【成果】

これらの活動や取組は、学校と地域住民、地域で事業を営む方々との連携を強め、生徒自身が地域から必要とされている存在であることを認識できる絶好の教育機会となっています。

生徒が東日本大震災や様々な災害について知り、学び、たくさんの方々に伝えるだけでなく、防災・減災に関わる様々な分野で活躍・貢献し、明日の国土を支える人材となるよう期待しています。



津波標識設置活動

■団体名：横浜市立^{ふとお}太尾小学区防災
まちづくり連携

■事例名：横浜における学校を拠点とした学区全体での防災まちづくり

■所在地：神奈川県横浜市

【団体概要】

昭和 51 年に学校を創立しました。平成 20 年に学校運営協議会及び学校支援本部を創設し、以来、学校を拠点とした防災まちづくりを持続・発展させています。

【背景】

学校創立期は、東横線沿線のため住宅が急増しながらも農地と工場が多い地域でしたが、20 世紀末には工場跡地にマンション群が建ち並び、児童の半数がマンション住民となりました。マンション住民の自治会への加入が進まず、自治会等で神社の祭りなど地域行事に参加する児童と、そうでない児童との差異、地域社会の乖離が課題となっていきました。

【取組の内容】

(1) 「ふるさと太尾構想」の理念

地域の中で学校をどのように運営していくか、地域防災との連携をどう進めるかについて、職員間で共通理解を練り上げ、学校運営協議会で協議し、「ふるさと太尾構想」としてまとめました。

(2) 自治会長たちとの防災学習会

防災倉庫の整備活動の後に、校長を講師として自治会長たちに防災学習会を開催しました。

(3) 防災授業参観と地域防災訓練の共催

平成 26 年 11 月、学校の授業参観の一環として、全職員、児童、保護者が地域防災訓練に参加する学校地域連携行事を初めて開催しました。

(4) 学区防災マニュアルの学区 8,000 戸配付・HP による共有

「ふるさと太尾防災震災時行動マニュアル」を作成し、学校ホームページにリンク掲示するとともに、地域 8,000 戸に配布しました。

(5) 学校職員・地域連携防災マニュアル

職員がひと目で自分の任務の流れがわかるよう「学校職員・地域連携防災マニュアル」を作成しました。

(6) 学校職員の主体的防災研修への取組

「防災リーダー研修」を受講した職員を講師として、全職員を対象に「職員防災研修」を実施し、職員の防災組織化、意識、知識、技能の向上が急速に進みました。

(7) 地域とマンション群とが乖離している課題の克服と訓練の実施

自治会に加入していない学区内の全てのマンション理事長宛に、訓練に参加するよう呼びかけた結果、全てのマンションが参加することとなりました。

こうして、全ての自治会、マンション等で初期対応訓練を実施後、学校で技能訓練及び避難所開設訓練を行い、防災授業参観に参加するという太尾小学区の総合的防災教育スタイルが実現していきました。

【成果】

(1) 児童の成長

児童は、防災まちづくりに真剣に取り組む保護者や地域住民の後ろ姿を見て育ち、防災の知識、技能を身に付けています。

(2) 保護者層の地域人としての成長

学校、地域、保護者の連携行事や防災において保護者層が重要な役割を担い、地域住民として活躍し成長しています。

(3) 学校職員の防災力の向上

学校職員の防災への意識、知識、技能、地域連携力が高まり、地域、保護者と連携して防災に取り組んでいます。

(4) 学校を拠点とした地域社会の再構築

「学校を拠点とした地域社会の再構築」が実現しており、地域の乖離が解消され、同時に災害に強い共助の意識と体制づくりが進んでいます。



全クラス防災授業参観

■団体名：豊橋手話通訳学習者の会・豊橋手話ネットワーク

■事例名：聴覚障害者の視点に立った防災対策及び聴覚障害者支援に関する啓発活動への取り組み

■所在地：愛知県豊橋市

【団体概要】

あらゆる場面で手話が言語として定着し、聴覚障害者の情報保障を充実させ、聴覚障害者の社会参加が進んでいくことを願い、次の活動を実施しています。

(1) 手話の普及

学校の手話クラブ、福祉実践教室、各種手話体験講座などの運営に取り組み、手話の普及に努めています。

(2) 手話通訳技術の向上

定例学習会、外部講師を招いての研修会の開催、他市町村で開かれる学習会への参加等、手話通訳技術の研鑽に努めています。

(3) 聴覚障害者の防災対策

日常生活時だけでなく災害発生時における聴覚障害者の情報保障体制の充実のために、地域の防災訓練に毎回参加しています。

【背景】

障害者支援に関わる団体の1つとして、日頃から、地域の防災訓練に参加するとともに、行政機関及び関係団体との合同会議に積極的に参加してきました。その中で、訓練に参加してきたからこそ分かる課題も顕在化してきました。

こうしたことから、具体的に課題解決に動かなければならないと考え、団体創立30周年を過ぎた平成24年度から聴覚障害者の視点に立った防災対策及び聴覚障害者支援に関する啓発活動への取り組みをスタートさせました。

【取組の内容】

まず、兵庫県内で聴覚障害者の防災に取り組んできた方々を講師に招き、地元の防災対策活動の課題の掘り起こしに取り組みました。その後、活動の過程で見えてきた課題について、具体的に行動に移していかなければならない項目を考え、次のプロジェクトをスタートさせました。

(1) 聴覚障害者理解の促進活動の実施

「聴覚障害者自主防災ガイドブック」を配布しました。

(2) 聴覚障害者の避難所実態調査の実施

聴覚障害者や手話のできる支援者の避難実態の把握と、支援体制のルール化に取り組みました。

(3) 「避難所でのお知らせ絵カード」等の普及活動の実施

「避難所でのお知らせ絵カード」等を実際に使用してもらうために、避難所開設訓練等へ積極的に参加するとともに、避難所開設要員等の方々への研修会開催の働き掛けを実施しました。

(4) 防災対策活動関係団体との連携活動の実施

消防署との合同訓練や、保健所との合同イベント、応急救護所関係スタッフ（団体）との合同学習会の実施などに取り組みました。

また、「豊橋市聴覚障害者協会」と「豊橋手話通訳学習者の会」が連携して取り組んできた活動を、より組織的かつ広く市民の方々に身近に感じてもらえるようにするため、両団体が中心となって、聴覚障害者支援の関連団体を取りまとめた「豊橋手話ネットワーク」を組織して、さらに活動の輪を広げています。

【成果】

災害発生時における聴覚障害者の情報保障体制の充実を目指し、各種活動に取り組んできた結果、地域の中に聴覚障害者が居ることが広く市民の方々に認知され、絵や文字による情報保障の大切さが浸透し始めています。

今後も、必要とされるころへは、ファシリテーターとして参加・協力していくようにし、

他団体の方々との学習会にも積極的に企画・参加するようにしていきたいです。



消防署との合同学習会

第25回防災まちづくり大賞 受賞団体一覧

【総務大臣賞】(3団体)

(各賞、建制順)

団体名	事例名称
宮城県多賀城高等学校 (宮城県多賀城市)	東日本大震災の教訓を未来に伝え国内外の防災・減災に貢献する人材を育てる学校づくり
横浜市立太尾小学区防災まちづくり連携 (神奈川県横浜市)	横浜における学校を拠点とした学区全体での防災まちづくり
豊橋手話通訳学習者の会・豊橋手話ネットワーク (愛知県豊橋市)	聴覚障害者の視点に立った防災対策及び聴覚障害者支援に関する啓発活動への取り組み

【消防庁長官賞】(5団体)

団体名	事例名称
心のあかりを灯す会 (東京都練馬区)	手作りの人形劇で防災教育 食を通じた震災への備え
女性防災クラブ平塚パワーズ (神奈川県平塚市)	防災減災パワーズブックの発行・普及
浜郷地区まちづくり協議会 (三重県伊勢市)	『五自治会を基軸とした 防災のまちづくり』 ～自分たちで助け合い災害から命を守る～
海南市立下津第二中学校 (和歌山県海南市)	夢をかたり、汗をかき、絆をつむぐ ～心を一つにして地域の被災者を支援する～
チームサツキ (岡山県倉敷市)	サツキPROJECT ～西日本豪雨で被災したアパートを地域の防災拠点住宅に再生する～

【日本防火・防災協会会長賞】(9団体)

団体名	事例名称
婦防みやぎの朗読会 (宮城県仙台市)	東日本大震災の体験文集に収めた貴重な体験記を後世に語り継ぎ風化させない取組
那須塩原市黒磯婦人防火クラブ連絡協議会 (栃木県那須塩原市)	女性による防火防災訓練
社会福祉法人 榎東村社会福祉協議会 (群馬県榎東村)	見守りネットワーク事業、住民支え合いマップづくり
緊急災害対応アライアンス SEMA (東京都港区)	民間のチカラで被災地の早期復旧を目指す 緊急災害対応アライアンスSEMA
みなとアクルスまちづくり推進協議会 (愛知県名古屋)	地域防災に資する災害に強いまち「みなとアクルス」 ～DCP 実現に向けたまちの取り組み～
佐用町 (兵庫県佐用町)	平成21年台風第9号災害の経験・教訓を未来につなぐ大雨防災教育
呉市立広南中学校 (広島県呉市)	地域と創る広南避難プログラム ～災害の歴史の伝承と災害に強いまちづくりを目指して～
四万十町立興津中学校 (高知県四万十町)	全校3名 宿命(津波)に挑戦!～ 正しく、冷静に恐れようFinal ～
津久見市、大分県、ツクミツリタイ、福岡大学景観まちづくり研究室、大分大学建築・都市計画研究室 (大分県津久見市)	市街地活性化と防災の両立を目指したハード・ソフトの連携まちづくり